

ナガエツルノゲイトウ生息調査に参加

11月11日（火）、千葉県八千代市を流れる神崎川、^{かんのう}桑納川、新川において、印旛沼流域水循環健全化会議生態系ワーキング主催による「ナガエツルノゲイトウ生息調査」が同ワーキングメンバー（千葉県、千葉市、八千代市、印旛沼土地改良区、（独）水資源機構千葉用水総合管理所、東邦大学、佐倉印旛沼ネットワークの会、環境パートナーシップちば他）約20名の参加者により実施されました。今回の調査は、近年、新川周辺エリアでは広範囲な同植物の群落形成により、千葉用水総合管理所が管理する大和田機場の排水機能の低下をはじめ治水上の影響が生じていることから、その影響を軽減するべく同植物の監視体制を構築することを目的として実施されました。

当日は、今年9月に佐倉印旛沼ネットワークの会が調査した同植物の生息状況データをもとに、10月に発生した台風18号及び19号がもたらす出水による同植物の群落流出のメカニズムにかかる仮説を検証するため、各河川が同植物の供給元となっているか、また供給元から千切れた同植物がどのように分布しているかなどを主眼とする目視調査を行いました。

調査終了後、八千代市役所において同植物の生息状況、生息可能条件及び流出条件のほか、同植物が河川水際にある投棄物（ゴミ、航行不能な小舟など）や設置物に漂着した後



●土の河岸に接岸するナガエツルノゲイトウ群落

根付いたり、堤防に設置された堤防護岸のカゴマットに入り込むなど生育可能な環境が絶えず存在することも一因ではないかとの報告を交えながら意見交換がなされました。

引き続き、本日の調査結果を踏まえ、同植物による影響の軽減を目指して、より効果的・効率的な対策を検討し各関係機関においてそれらを情報共有していきます。



●カゴマットからナガエツルノゲイトウが増殖開始



●設置物を基点に成長するナガエツルノゲイトウ



●調査結果にもとづく意見交換会



●徹夜でナガエツルノゲイトウを引き上げ中

※近年、千葉用水総合管理所が大和田機場の排水運転をすると、同機場の吸水口スクリーンに大量のナガエツルノゲイトウ群落は漂着します。これがスクリーンに付着し目詰まりをおこすと、吸水口内の水位低下による排水機能の低下及び排水ポンプ停止など、排水作業に大きな支障が生じます。この支障を回避するには、機構職員の監視のもと建設機械等による昼夜を問わずの除去作業などが必要となります。

※ナガエツルノゲイトウ（特定外来植物）

南アメリカ原産の外来種で、水辺の湿った環境に生える多年草である。在来種の植物を駆逐したり水面上に繁茂することで水流を停滞させる。また、農業用水のポンプがナガエツルノゲイトウを吸い込むことでスクリーンに目詰まりが生じポンプ運転に支障を来す。